

king property

- (1) 連続関数 $f(x)$ が、すべての実数 x について $f(\pi-x)=f(x)$ を満たすとき、 $\int_0^\pi \left(x-\frac{\pi}{2}\right)f(x)dx=0$ がなりたつことを証明せよ。
- (2) $\int_0^\pi \frac{x \sin^3 x}{4-\cos^2 x} dx$ を求めよ。

< '05 名古屋大 >

【戦略】

- (1) $I = \int_0^\pi \left(x-\frac{\pi}{2}\right)f(x)dx$ とおきます。

$\pi-x=t$ という置換により、 $I = -\int_0^\pi \left(t-\frac{\pi}{2}\right)f(t)dt$ という部分まではほぐせると思います。

定積分の意味が分かっていたら、 $\int_0^\pi \left(t-\frac{\pi}{2}\right)f(t)dt = I$ なので $I = -I$ となり、 $I=0$ を得ることになり証明完了です。

- (2) (1) という強力なヒントがあります。

(1) をヒントと捉えるには、(1) で示した $\int_0^\pi \left(x-\frac{\pi}{2}\right)f(x)dx=0$ という形を、 $\int_0^\pi \left\{xf(x)-\frac{\pi}{2}f(x)\right\}dx=0$ と一旦展開し、移項した

$$\int_0^\pi xf(x)dx = \frac{\pi}{2} \int_0^\pi f(x)dx$$

と見る必要があります。

これは、 x 倍 (変数倍) が $\frac{\pi}{2}$ 倍 (定数倍) となっていることを意味します。

与えられた定積分の中身を $xf(x)$ の形で見ようと思うと

$$f(x) = \frac{\sin^3 x}{4-\cos^2 x} \text{ と設定することになりますし、(1) の利用条件}$$

$f(\pi-x)=f(x)$ を確かめたくなります。

その後は、 $\int_0^\pi \frac{\sin^3 x}{4-\cos^2 x} dx$ という定積分の処理に集中すればよいでしょう。

置換を使わなくても出来ませんが、眼に優しくするために

$$\int_0^\pi \frac{1-\cos^2 x}{4-\cos^2 x} \cdot \sin x dx \text{ と見て } \cos x = u \text{ と置換します。}$$

【解答】

- (1) $I = \int_0^\pi \left(x-\frac{\pi}{2}\right)f(x)dx$ とおく。

$$\pi-x=t \text{ とおくと, } \begin{array}{c|c} x & 0 \rightarrow \pi \\ t & \pi \rightarrow 0 \end{array} \quad -dx=dt$$

$$\begin{aligned} I &= \int_\pi^0 \left\{(\pi-t)-\frac{\pi}{2}\right\} f(\pi-t) (-dt) \\ &= \int_0^\pi \left(\frac{\pi}{2}-t\right) f(t) dt \quad (\because \text{条件 } f(\pi-x)=f(x)) \\ &= -\int_0^\pi \left(t-\frac{\pi}{2}\right) f(t) dt \\ &= -\int_0^\pi \left(x-\frac{\pi}{2}\right) f(x) dx \quad (\because \text{積分変数は自由}) \\ &= -I \end{aligned}$$

ゆえに、 $2I=0$ であり、 $I=0$ を得る。

これより、 $\int_0^\pi \left(x-\frac{\pi}{2}\right)f(x)dx=0$ が成立する。

- (2) $f(x) = \frac{\sin^3 x}{4-\cos^2 x}$ とすると、

$$\begin{aligned} f(\pi-x) &= \frac{\sin^3(\pi-x)}{4-\cos^2(\pi-x)} \\ &= \frac{\sin^3 x}{4-(-\cos x)^2} \\ &= \frac{\sin^3 x}{4+\cos^2 x} \\ &= f(x) \end{aligned}$$

よって、(1) を整理した $\int_0^\pi xf(x)dx = \frac{\pi}{2} \int_0^\pi f(x)dx$ が成立する。

求める定積分を J とすると、

$$\begin{aligned} J &= \int_0^\pi xf(x)dx \\ &= \frac{\pi}{2} \int_0^\pi f(x)dx \\ &= \frac{\pi}{2} \int_0^\pi \frac{\sin^3 x}{4-\cos^2 x} dx \\ &= \frac{\pi}{2} \int_0^\pi \frac{\sin^2 x}{4-\cos^2 x} \cdot \sin x dx \\ &= \frac{\pi}{2} \int_0^\pi \frac{1-\cos^2 x}{4-\cos^2 x} \cdot \sin x dx \end{aligned}$$

$$\cos x = u \text{ とおくと, } -\sin x dx = du \quad \begin{array}{c|c} x & 0 \rightarrow \pi \\ u & 1 \rightarrow -1 \end{array}$$

$$\begin{aligned}
J &= \frac{\pi}{2} \int_1^{-1} \frac{1-u^2}{4-u^2} (-du) \\
&= \frac{\pi}{2} \int_{-1}^1 \frac{1-u^2}{4-u^2} du \\
&= \pi \int_0^1 \frac{1-u^2}{4-u^2} du \quad (\because \text{偶関数の性質}) \\
&= \pi \int_0^1 \frac{4-u^2-3}{4-u^2} du \\
&= \pi \int_0^1 \left(1 + \frac{3}{u^2-4}\right) du \quad \text{仮分数} \rightarrow \text{帯分数} \\
&= \pi + 3\pi \int_0^1 \frac{1}{(u+2)(u-2)} du \\
&= \pi + \frac{3\pi}{4} \int_0^1 \left(\frac{1}{u-2} - \frac{1}{u+2}\right) du \\
&= \pi + \frac{3\pi}{4} [\log|u-2| - \log|u+2|]_0^1 \\
&= \pi + \frac{3\pi}{4} \left[\log\left|\frac{u-2}{u+2}\right|\right]_0^1 \\
&= \pi + \frac{3\pi}{4} \left\{\log\frac{1}{3} - \log 1\right\} \\
&= \pi + \frac{3\pi}{4} \log\frac{1}{3} \\
&= \pi - \frac{3\pi}{4} \log 3 \\
&= \left(1 - \frac{3}{4} \log 3\right) \pi \dots \text{答}
\end{aligned}$$

【総括】

(1) で $\pi-x=t$ という置換により, $I = -\int_0^\pi \left(t - \frac{\pi}{2}\right) f(t) dt$ を得た後

$t = \pi - x$ を代入すると当たり前ですが元に戻ってしまいます。

気を付けたいのは

$$\int_0^\pi \left(t - \frac{\pi}{2}\right) f(t) dt = [F(t)]_0^\pi = F(\pi) - F(0) \quad (= \text{定数})$$

と, この定積分の結果は「定数」であり, その定数を I と呼んでいるわけです。

別に積分変数は

$$\int_0^\pi \left(p - \frac{\pi}{2}\right) f(p) dp = [F(p)]_0^\pi = F(\pi) - F(0) \quad (= \text{定数})$$

$$\int_0^\pi \left(a - \frac{\pi}{2}\right) f(a) da = [F(a)]_0^\pi = F(\pi) - F(0) \quad (= \text{定数})$$

などというように, t でなくても何でもいいですね。

なお, 本問のバックボーンにあるのは

「king property (キングプロパティー)」

と呼ばれるものです。

【参考】

king property

a, b を定数とし, $f(x)$ が連続関数であるとするとき

$$\int_a^b f(x) dx = \int_a^b f(a+b-x) dx$$

が成立する。

【式的証明】

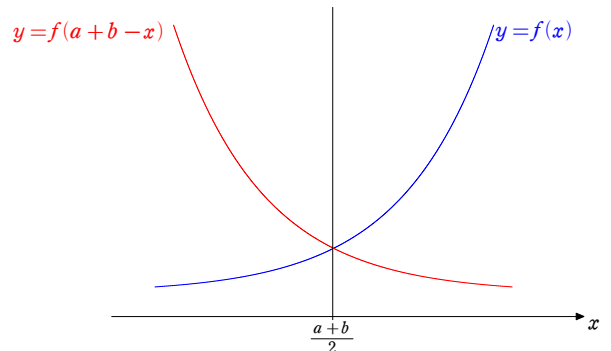
$\int_a^b f(a+b-x) dx$ において, $a+b-x=t$ とおくと

x	a	\rightarrow	b	$-dx = dt$
t	b	\rightarrow	a	

よって,

$$\begin{aligned}
\int_a^b f(a+b-x) dx &= \int_b^a f(t) (-dt) \\
&= \int_a^b f(t) dt \\
&= \int_a^b f(x) dx
\end{aligned}$$

【視覚的イメージ】

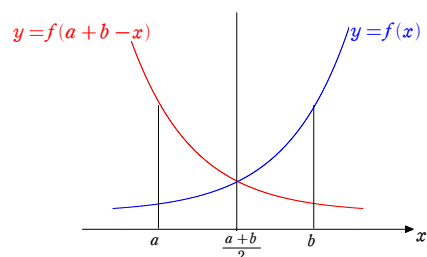


$g(x) = f(a+b-x)$ と置きなおします。任意の実数 s に対して

$$\begin{aligned}
g\left(\frac{a+b}{2} - s\right) &= f\left(a+b - \frac{a+b}{2} + s\right) \\
&= f\left(\frac{a+b}{2} + s\right)
\end{aligned}$$

ですから, $y=f(x)$ と $y=g(x)$ は直線 $x = \frac{a+b}{2}$ に関して対称です。

したがって, 面積的にも $\int_a^b f(x) dx = \int_a^b f(a+b-x) dx$ が成り立つことになります。



【本問においては】

$$\int_0^{\pi} \frac{x \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx = \int_0^{\pi} \frac{(0 + \pi - x) \sin^3(0 + \pi - x)}{4 - \cos^2(0 + \pi - x)}$$

と king property を用いると

$$\begin{aligned} \int_0^{\pi} \frac{x \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx &= \int_0^{\pi} \frac{(\pi - x) \sin^3(\pi - x)}{4 - \cos^2(\pi - x)} dx \\ &= \int_0^{\pi} \frac{(\pi - x) \sin^3 x}{4 - (-\cos x)^2} dx \\ &= \int_0^{\pi} \frac{\pi \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx - \int_0^{\pi} \frac{x \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx \end{aligned}$$

となり, 移項すれば, $2 \int_0^{\pi} \frac{x \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx = \int_0^{\pi} \frac{\pi \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx$

すなわち, $\int_0^{\pi} \frac{x \sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx = \frac{\pi}{2} \int_0^{\pi} \frac{\sin^3 x}{4 - \cos^2 x} dx$ となります。